

# 研究通信

No. 36

会局  
研究社務  
1960年8月刊  
会員  
事務  
農村  
社会  
東洋学部  
東京文京区原町17  
研究室

## 「村落と政治体制」の主題についての感想など

鈴木栄太郎

私は今研究の主力を国民社会の研究に向けています。農村社会の研究のあとに都市社会の研究に専念していると農村社会の理解も一歩前進した様に思われるのです。そして何かにつけ農村と都市は一枚の俎上に並べて観察する様になりました。然るにその一枚の俎上というのは具体的には国民社会の広場であったのです。国民社会の広場において考査すると都市も村落も家族も皆私には俄かに鮮明度を増した様に見えるのです。この大きな国民社会のメカニズムを今凝視しているところですが、心ばかりあせつて思う様に研究は進みません。

私はかつて農村の研究に専念していた頃には国家統治の力が自然村の上に働きかけている色々の場面を観察していました。明治以後の自然村の発展に國家統治の力が働きかけて自然村に青枯れ病の様な影響を与えた事件として部落有村野整理と氏神合祀の促進政策には思わず心を奪われました。（以下挿入10頁）

行政上のそんな措置の理由は一応知り得たとしても、農村をそれ丈として研究していた私には正しい理解が充分に出来なかつたのは当然であります。

然し当時の私としては、農村社会に及ぼす政治の力の如何に強烈なものであるかはよくのみこんでいましたし、故にそこに関心を払うこと多かつた事は当時私が書いたものをよく読んで頂ければ分ると思うのです。勿論当時は国民社会の広場において理解していただけなかつた為に理解が甚だ浅いものであつた事は当然であります。

私は十種の農村社会集団の中に、行政的地区集団を第一にあげておりますし、農村調査手引の本においても旧幕時代の行政村に難認を第一にあげています。明治以後の自然村は旧幕時代の行政村に直結して居る場合が多い事を暗示していたのです。行政近隣が固定してやがて自然近隣となり、行政村が自然村となり、行政都市が自然都市になる事も今の私は自然の勢と思つています。自然村と云う語ももとく行政村に対比する語であつたのです。それ以上の意味があるのでない事は私は方々述べたつもりです。

民族はかつての長い間の国家的統治の痕跡であると見ることも出来る様に、国家統治の発展は焼印の様な足あとを文化の上に残していくと思われるのです。国家統治はそれ程強く国民社会生活を支配しています。

社会学は従来政治と云う現象をありのまゝの姿において観察する事を意つていた様に思ふのです。私等は政治と云う現象をもつと直視する必要があると思うのです。

村落と政治の問題が今年の村研の大会で論議されるのに期待しています。日本の農村における生の政治現象を実證的社會学者がどのように理解するか期待しています。

◎お詫び……鈴木栄太郎先生の論文（一頁）  
の一部に次の挿入を必要とします。編集上  
の誤りを深くお詫び申し上げます。

人が折角つくり上げている親和協力の一つの  
立派な組織を政治が事もなげに切りくづして  
いる様に思えたからです。政治は誰の為に何  
の為にそんな事をするのか少しは考えて見ま  
した。当時アメリカでは農民相互の間の親和  
協力の組織の片影でもないかと農村社会学等  
は絶がよりで搜していたところです。